



Title	内陸アジア言語の研究 VII 表紙
Author(s)	
Citation	内陸アジア言語の研究. 1992, 7
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/22003">https://hdl.handle.net/11094/22003</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 内陸アジア言語の研究 VII

所謂 'Tumshuqese' 文書中的 'gyāzdi-' ..... 1

榮 新 江

レニングラードにあるチベット文字轉寫法華經

普門品（續） ..... 13

高 田 時 雄

ウイグル文書劄記（その三） ..... 43

森 安 孝 夫

「阿史那毗伽特勤墓誌」訳試稿 ..... 55

石 見 清 裕

ソグド語仏典解説 ..... 95

吉 田 豊

P. Zieme博士業績目録 ..... 121

ア ジ ア 大 陸 の 言 語 研 究 班  
(神 戸 市 外 国 語 大 学)

# STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES

## VII

Rong Xinjiang : On *gyāzdi*-found in the so-called  
Tumshuqese documents

T. Takata: The Chinese Lotus Sūtra (Samanta-  
mukhaparivarta) in Tibetan script (II)

T. Moriyasu: Notes on Uigur documents (III)

K. Iwami: A translation of "*The epitaph of Ashina  
Bilgä Tigin*"

Y. Yoshida: Buddhist literature in Sogdian

Bibliography of Peter Zieme

## は　し　が　き

『内陸アジア言語の研究』は、従来アジア大陸の言語研究班が、神戸市外国語大学の外国学研究のシリーズの1冊として発行してきたものである。1990年までに6冊が刊行された。しかし残念なことに、1991年度は学内事情により、刊行のための予算の支給を受けることができなくなってしまった。この事態に直面して、一時は『内陸アジア言語の研究』VIIの発行を断念すべきかとも思われた。しかし既に何点かの原稿が集まっていたことと、内外に本誌の継続を望む声が少なからずあったことに鑑み、有志の協力を求めて刊行に踏み切った。今回は新たに、榮新江、石見清裕両氏の論考に加えて、昨年来日されたP.Zieme氏の最新の文献目録を掲載することができた。Zieme氏の研究は古代中央アジアの言語（特に古代トルコ語）・宗教・文化の解明に大きく貢献しているが、多数の論文や書評が、種々の雑誌・論文集に掲載されているため、全体を把握することは容易ではなかった。今回氏自身が作成された文献表を提出することによって、斯学の学徒に多大な便宜となったと確信している。

この間には本学の研究所及び研究班の再編の結果、1992年度も我々の研究班は予算の配分に預かることができなくなった。本学の現在のシステムでは、今後連年の刊行を期待することは不可能に等しくなったようと思われる。本誌の標榜する言語学・文献学に基づいた中央アジア研究の存在意義は大きいと考えるので、なんらかの手段を講じて廃刊という事態だけは避けなければならぬ。

1992年3月31日

アジア大陸の言語研究班